

クラウド間バックアップの重要性

Microsoftがサードパーティのアプリやサービスの使用を推奨する理由

データの責任を負うのは？

- SaaS アプリケーションのデータバックアップに関して全責任を負っていることを理解している IT プロフェッショナルは、わずか 13% にとどまりました (ESG、2021 年)。
- 35% が、全責任を負っているのは自分なのに、SaaS ベンダーがデータ保護の全責任を負っているという誤った認識を持っています。Microsoft が責任を負うのはサービス自体の可用性に関してのみであり、プラットフォーム内のデータの復元性については責任を負いません (ESG、2021 年)。

極めてよくあることですが、SaaS アプリケーションを使用している企業は、クラウド上であればデータは安全であると信じています。しかし、共有責任モデルの場合、データは保護されません。オンプレミスに保存されている場合と同様に、データはユーザーの責任下にあります。クラウド上であっても、人的ミス、システム停止、サイバー脅威などの影響を受ける可能性があります。さらに、Microsoft はサービスにおいては高い可用性を示していますが、結果的にユーザーが損害を受けるかもしれないサービス中断やデータ損失に関しては責任を負っていません。これが、Microsoft や他の SaaS ベンダーが、ビジネスクリティカルなデータのバックアップにサードパーティのサービスを使用することを推奨している理由の 1 つです。

共有責任モデルにおけるデータ保護の責任の所在

簡単に言えば、Microsoft にはデータが格納されているインフラストラクチャとアプリケーションのセキュリティを確保する責任があり、顧客にはデータ自体に対する責任があります。以下の表に、Microsoft の責任がどこで終わり、ユーザーの責任がどこから始まるのかの詳細を示します。

責任共有モデル

DATA	SECURITY	REGULATORY
Microsoft Responsibility		
Infrastructure: Maximizing the uptime of Office 365 services	Data Center Protection: Protection for the infrastructure itself	Data Processor: Process and handle data per customer's instructions
Your Responsibility		
Data and Information: Endpoint devices, accounts and access management	Data Protection: Protection from cyber threats and human error (backup and security)	Data Controller: Onus of consent, access, privacy, retention and meeting legal requirements

Microsoft と OpenText™ : 連携による前進

残念ながら、Microsoft 365 は悪意のある行為、サービス停止、同期エラー、ハッカー、マルウェアなどに起因するデータ損失からユーザーを保護することはできません。人的ミスとセキュリティインシデントが混在して発生すると、サイバーセキュリティのギャップが大きくなり、ビジネスクリティカルなデータ損失につながる可能性があります。

Microsoft 365 は強力なプラットフォームですが、日々のバックアップやアーカイブのプロセスを備えていません。削除した項目を復元するネイティブに用意されたオプションは、操作が面倒で時間制限があり、既存のデータを上書きするため破壊的です。さらに、手動であれ自動であれ、ごみ箱から削除したデータは永久に消えてなくなります。この点は、データ損失とコンプライアンスの両方の観点から問題です。

OpenText™ では、技術的制約と時間的制約の両方が取り除かれるため、こうした問題がなくなります。1つのアイテムが対象の細かい復元が必要な場合であろうと、サイト全体の復元が必要な場合であろうと、OpenText™ Core Cloud-to-Cloud Backup を使用する方が、Microsoft のネイティブの機能を使用するよりも高速、簡単で、高い信頼性を得られます。

Microsoft のネイティブ機能の制限

- 保持ポリシーが設定されていない場合、復元できるのは過去 30 日間に削除したアイテムのみです。
- アクティブなファイルが削除されると、すべてのバージョンが同様に削除されます。ファイルバージョンは、独立したリカバリポイントではありません。
- 訴訟ホールドからのリカバリは可能ですが、詳細な検索を実行する方法はありません。

OpenText Core Cloud-to-Cloud Backup で利用できる機能

- M365、Google、Salesforce、Box、Dropbox のバックアップを自動化。
- アイテム、メールボックス、サイトの迅速、柔軟で、細かい設定による復元。
- ポイントインタイムリカバリによるデータの容易な復元。
- 日々のスナップショットを参照して検索を実行。
- 完全な冗長性による、安全性の向上。
- 無制限のストレージと保存期間により、多くのデータを保存。

詳細情報

OpenText Core Cloud-to-Cloud Backup は、Microsoft 365 などの主要な SaaS アプリケーションの包括的なバックアップおよびリカバリ機能を提供します。この専用バックアップソリューションを利用することで、IT 管理者は必要に応じて、さまざまな規模で SaaS アプリケーションのデータを復元できます。

詳細はこちら：[OpenText Core Cloud-to-Cloud Backup](#) ▶

OpenText Cybersecurity は、あらゆる規模の企業とパートナー様を対象に、包括的なセキュリティソリューションを提供しています。予防から検出、復旧対応、調査、コンプライアンスに至るエンドツーエンドの統合プラットフォームにより、包括的なセキュリティレポートフォリオを通じてサイバーレジリエンスの構築をサポートします。コンテキストに基づくリアルタイムの脅威インテリジェンスから得られた実用的なインサイトを活用できるため、OpenText Cybersecurity のお客様は、優れた製品、コンプライアンスが確保されたエクスペリエンス、簡素化されたセキュリティというメリットによって、ビジネスリスクを管理できます。SB_021323